

ことわざ・慣用句シリーズ

ここでは毎月、覚えておきたいことわざと慣用句を取り上げます。みなさんはどのくらい知っていますか？

慣用句

『小耳にはさむ』

意味：聞くつもりはないのに、なにげなく聞く、ちらっと聞く、の意味。

ひとこと：小耳の“小”は、“小首”“小銭”と同様、意味を強めたり、添えたりする役割り。

使い方：彼が転校するらしいというウワサを小耳にはさんだ。

『さじを投げる』

意味：ものごとを途中であきらめる、の意味。

ひとこと：昔の医師は、さじで薬の量をはかっていたことから来た言葉。

使い方：自転車の乗り方を教えてくれていた兄が、何度やっても出来ない私にさじを投げた。

ことわざ

『子を持って知る親の恩』

意味：親のありがたさは、自分が子供をもって初めて分かるものだ。

使い方：“子を持って知る親の恩”と言うが、子育ての苦労は、自分が親になってみて初めて分かるものだ。

『サルも木から落ちる』

意味：どんなに得意なことでもたまには失敗することがある、の意味。

ひとこと：類義語として、“かっぱの川流れ”“弘法にも筆の誤り”がある。

使い方：プロの野球選手でも“サルも木から落ちる”でエラーすることもある。